

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105-76	中学校	技術・家庭	技術・家庭 (家庭分野)	第1～3学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
9 開隆堂	家庭009-72	技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ		

1 編修の基本方針

一家庭分野の学びを通して、持続可能な未来へつなぐ一

社会の変化や科学技術の進展の中で主体的に生きていくために、「自立した人間として、他者や自然、地球と共生」しながら、価値を創造し、未来を切り拓いていく力の育成が求められます。

「家庭分野」では、家族・家庭を核として、地域と社会（国内、国際、自然）とかわりながら、命と暮らしを大切にすること、それらを通して持続可能な未来へつなぐことを学びます。

本教科書は、教育基本法の目標を家庭分野の特質を効果的に達成できるように、以下の基本方針のもとに編修しました。

この教科書で学ぶことによって、一人ひとりの中学生が「励まされ、自己肯定感が持てる」ことを願っています。

編修方針

1

「自立と共生は一体」であることが伝わる教科書

「自立と共生」は表裏一体であること、一人ですることだけではなく、「助けて」と言える力と「助けるよ」と応答する力も自立の一部であり、共生でもあることを理解できるようにしています。多様な人たち（幼児や高齢者などの世代・性・国籍の異なる人たち）の多様な自立と共生の姿を尊重します。

1 生きる力

生活的自立・経済的自立・精神的自立の意味を理解して他者と助け合い、協同、共同して生活を営むための基礎・基本が身につく構成と内容です。

2 他者や自然・地球との共生

クラスメイトや家族・幼児・高齢者障害のある人、国籍の異なる人たち等、様々な立場の人とのかかわりをイラストや写真とともに随所に掲載しています。

3 多様性の尊重

男女共同参画や多様な性などの事例から、共生や共生社会について考えていくことができるようにしています。



図6 目の不自由な人との交流



科学的な内容が見える教科書

生活は、先人たちの知恵や技術をもとにして引き継がれて成り立ち、営まれています。その知恵や技術は科学的な根拠にもとづいています。

学問に即した事象を丁寧な記述と視覚的な表現で、中学生が理解しやすい教科書です。

1 学問に即した生活に必要な知識・技術

特に、衣食住の記述に関しては、**科学的根拠による記述**で、「**なぜそのようになっているのか**」かが、納得・理解できるようにしています。例えば、調理実習では単に実習をするだけではなく、「**調理方法Q&A**」を取り上げ、洗濯実習では、洗剤のはたらきについて原理を理解したうえで実習が進められるようにしています。

調理方法Q&A

Q1 しょうがを入れるとどうなるのか

A1 しょうがにはたんぱく質分解酵素が含まれているため、肉をやわらかくします。肉や魚の臭みを消すはたらきもあります。

しょうがのほかに、パインアップルやキウイフルーツ、こうじなどにもたんぱく質分解酵素が含まれているよ。



2 自分の現実の生活と結び付けて学び考える工夫

自分の興味・関心を大事にしながら、**自分事として学ぶ導入や課題**を工夫し、課題を通して気づいたり、考えたり、理解したりすることができる構成です。

どのような生活をめざしたいか、自身で考え、判断していけるように記述を工夫しています。



3 現実の生活と外の世界をつなぐ視点と内容

生活現象の背景を広く、深くとらえていける目を養い、現実の生活が外の世界（地域・社会・国内・海外・地球等）と深くかかわっていることが理解できるようにしています。

世界に視野を広げて③

国際的視点から見るプラスチック汚染

海洋で残つたごみのうち、最も多いのがプラスチックで、全体の80%以上を占めています。海に流入するプラスチックごみは増え続けていますが、プラスチックは燃えることがありません。世界中で最も深いマリアナ海溝や、陸から離れた北極海や南極海からもプラスチックごみは残つています。私たちが捨てたごみが、海洋生物や生態系に影響をもち、私たちの社会、生活を脅かしています。



うみごめは、人間が捨てたごみからなり、プラスチックごみを餌食してしまいます。

環境へ
運出する
プラスチック

命と暮らしを守り、大切にせる教科書

生活を学びの対象とする、**命と暮らしにかかわる教科**であることの特質を十分に生かした構成と内容です。

1 命と個人の価値の尊重

かけがえのない命を守り、大切にするために、**過去の災害の経験から学び、生活を見直し改善していく**ことができるように、事例を紹介して、考え、工夫していけるようにしています。特に住生活では、「**わたしたちの防災～防災があたりまえの生活に～**」として、**8ページにわたって詳細**に、個人の命の大切さと個人の価値を尊重していくことの必要性に迫っています。

2 安全・安心な社会の実現

誰もが日々を安全で安心して過ごせることを願っています、そのために、個人をはじめとして、家族・家庭や地域・社会、国、世界では、環境を整えたり制度を作ったりしてきました。それらの事例を積極的に取り上げながら、「安全・安心な社会」の実現のために必要なことなどが考えていけるようにしています。

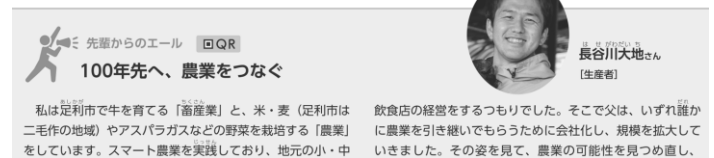
3 生活文化・伝統文化の尊重

生活の中ではぐくまれてきた文化と伝統について、衣食住の生活や幼児の生活などの事例を数多く取り上げることによって、生活と伝統文化との深いかかわりを理解し、現在の生活にも実践できることを体験できるようにしています。また、他国の例にも触れ、国際的な視点への興味と他国の文化を尊重する心情も養うことができます。



4 中学生とキャリアをつなぐ

学習内容の「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活と環境」と密接につながる職業の方々に「先輩からのエール」として、職業



を通してメッセージやエールを送っていただいています。生活がいろいろな職業・人によって成り立ち、支えられていることを理解し、将来の自分の進路選択の参考にもなるようにしています。

編修方針

4

持続可能な社会をめざす教科書

一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また、環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革できることをめざします（ESD教育）。そのために、環境教育の充実、人権・福祉・男女平等・防災など、公平・公正な社会をめざすための事例を積極的に取り上げています。

また、学習内容のABCDのすべての最後に、「持続可能な社会」の実現に向けて、中学生が主体的に考えることができるまとめのページを設定して、SDGsの目標とも関連させながら、家庭分野の学習を持続可能な社会に向けてつないでいます。

1 自然と共生しながら、環境危機・環境保全に取り組む

個々の学習内容と関連づけながら、環境に関する箇所に、「環境マーク」を付して、気候変動・環境保全の意識が高められるようにしています。

2 人権と平等性の尊重

自然との共生や人権と平等性の尊重を軸としながら、持続可能な社会を構築するための課題について理解し、主体的に行動できるように、学習内容のABCDのすべてで、関連を図っています。

3 公平で公正な家庭生活・社会生活をめざす

「持続可能な開発目標（SDGs）」の前文で宣言されている「誰一人取り残さない」「すべての人の人権を実現する」ことについて、具体的に家庭分野で実践できることを考え、家庭生活や社会生活で生かせるように、随所で意識化を図っています。

2 対照表

教育基本法第2条の目標の達成のために、以下の点で特に編修に意を用いました。

内容・構成		特に意を用いた点や特色	第2条との対照	該当箇所
本文	共通事項	各内容を学習の目標、導入課題、本文と展開し、最終章での「学習のまとめ」で自己評価する構成で、問題解決学習への取り組み方を視覚的・具体的に示しています。本文以外にも、参考やイラスト・写真などで多彩な事例を示し、幅広い教養が身に付くようにしています。日常生活の中で興味・関心や疑問に思うことなどの問いかけを設定し、生活を科学的にみて、真理を探究する態度を養います。また、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、自主及び自律の精神を養うよう、自分の考えを記入できるようにしました。各内容各章の節ごと、創造性を培う活動場面に「話し合い・考察・調査・実践」などの課題を設定しました。	第1号 第2号	全般
本文	共通事項	教科書全体で自立をテーマに、生活を問い直し改善できるよう、考え、体験する学習を充実させています。さらに「生活の課題と実践」では、学習したことを生活に生かし課題をもって主体的な取り組みができるよう、多様な課題例を掲載しています。	第2号	全般
ガイダンス	自立と共生で成り立っている生活	自立や共生とはどのようなことか、自分や周囲の人たちの生活をふり返って考えを表明する場面を設け、主体的な思考活動ができるようにしています。	第2号 第3号	10・11頁
本文	共通事項	家庭でも社会でも男女が協力して支える社会をめざす男女共同参画社会の重要性を示し、図・写真・イラストなどを中心に公平な配慮をしています。	第3号	全般
本文	A「今の自分とこれから」「4幼児の生活と家庭」「5幼児が安心できるかわり」	家族や地域の人々、周囲の人々など多くの人々に支えられていることを理解するために、多くの事例を示しています。	第1号	18・19、58・59、70-81頁
ガイダンス・本文	自立と共生で成り立っている生活 A「今の自分とこれから」	共生社会をテーマに、様々な人々と関わり合っていくことの必要性を理解し、人々と支え合い、分かち合い、これからの社会を考えられるよう、事例を充実させ、工夫しています。	第3号	10・11、18・19頁
本文	A「5幼児が安心できるかわり」 B食「1人間にとっての食事」	健やかな成長のためには、国の法律・制度によって整えられた環境が必要であることを理解するための資料を充実させ、直接的には食事による体力づくりの必要性に関する内容を充実させています。	第1号	73-75、90-95頁
本文	製作・実習	調理実習や製作では、生徒の意欲を尊重し、つくりたいものを考えることを促しています。	第2号	128-151、156・157、164・165、168・169頁
本文	キャリア教育のコラム （「先輩からのエール」他）	職業観を養い、社会に目を向けられるよう、実際に働いている方20名からのメッセージを関連該当箇所及び各内容の最終頁で紹介しています。将来の職業選択の参考になります。	第2号	70、85、90、153、171、175、210、229、239、259、282、289頁他
	A「6かかわり合う地域と家庭」	地域の人びととともに協力して主体的に社会の形成に参画できるようにいろいろな事例を取り上げています。	第3号	76-81頁
本文	共通事項	実習や活動を通して、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるように写真やイラスト等にも配慮しました。	第3号	全般
ガイダンス・本文	持続可能な社会の構築へ 持続可能な生活（食・衣・住） 持続可能な社会に向けて	自然を大切に、環境を保全することの大切さに気付き、意識化することができるように、しています。また、持続可能な社会の構築の視点から、教科書全体にわたって環境への配慮の記述をしています。また、環境に関わる学習ポイントを示す環境マークを付すなどして、環境保全に寄与する態度を身につけることを目指しました。	第4号	8・9、172-174、226-228、256-258、284-288頁他
本文	C「3消費者被害と消費者の自立」	これからの社会を生きる主体として、権利には責任が伴うことを示し、公正な社会に向けた取り組みを随所で取り上げ、具体的に考えられる課題を工夫しています。	第3号	274-277、283頁他
本文	A「6かかわり合う地域と家庭」 B住「4安全で健康的な住生活」 他	災害や防災などの事例を積極的に取り上げ、日常的に防災への意識を高め、生命を貴ぶ態度を身に付けることをめざします。調理実習や製作実習でも、防災に関連するものを取り上げています。	第4号	81、156・157、220、242-259頁
本文	A「4幼児の生活と家庭」 B食「4日常食の調理と地域の食文化」 B衣「2衣服の選択と着方」 B住「3自然とともにある住生活」	伝統文化を示すマークを該当箇所に付しました。伝統的な幼児の遊びや和食、郷土料理、伝統的な民家や建築技術、和服などを数多く取り上げ、日本各地の伝統文化の事例を充実させることで、我が国の独自の文化と先人の工夫に気付き、愛着をもつとともに、日本人としての誇りが育まれるようにしました。	第5号	56、158-165、206-209、240・241、257頁
本文 特設頁	A「6かかわり合う地域と家庭」 ABC持続可能な生活 「世界に視野を広げて」	諸外国に目を向ける事例を豊富に取り上げ、世界の国々に関心をもち、他国と協力して、これからの国際社会に貢献しようとする態度を育むようにしました。	第5号	77、83、172-174、284・285、288、304-309頁他
本文	生活の課題と実践 など	人とのふれ合いや関わりを通して、感謝の気持ちを表わしたり、世代の異なる人や他国の文化など交流したりすることで、他者、他文化を尊重する大切さがわかるようにしました。	第5号	292-303頁

3 上記以外に特に意を用いた点や特色

①ユニバーサルデザイン

- ・書体は視認性の高い**ユニバーサルフォント**を使用しています。
- ・多様な色覚を持つさまざまな生徒に対して、**カラーユニバーサルデザインの観点**からデザイン、配色について色彩の専門家による検証を行っています。

②特別支援教育への配慮

- ・紙面は、各内容が「章（節→項目）→学習のまとめ」の構成、調理・製作の実習手順については横流れを基本としていずれも学習、手順の流れをつかみやすいようにしています。
- ・「見てわかる」を大切に、「1日にとりたい食品と重量」や「年齢別の幼児の手・足」などを**実物大写真**で示して大きさの感覚をつかめるようにしています。

③他教科・技術分野・小学校の学習との関連

- ・他教科や技術分野、小学校の学習を有機的につなぐため、関連する学習内容に【**関連リンク**】を設けています。



④安全教育

- ・ガイダンスに「**楽しく安全に実習しよう**」を設け、**実習上の安全と衛生**についていつも配慮できるようにし、さらに、**調理・製作実習の基礎・基本**などの要所や**食物アレルギー**などについて**安全マーク**を、「**食品の取り扱い**」や**調理実習**などには**衛生マーク**を付して、注意喚起を行っています。



⑤防災教育

- ・防災に関する記事には**防災アイコン**を付しています。近年、増加する自然災害に対し、住生活の中に**特設ページ「私たちの防災～防災があたりまえの生活に～」**を設けています。その中で、平常時からの備え、災害発生時の対応、災害の種類によって異なる緊急避難場所、災害時の生活、災害後の生活の立て直しについて**具体的・詳細な記述**によって、**意識化を図っています**。



⑥環境教育・消費者教育

- ・随所に**環境・消費マーク**を付して環境や消費に関する学習への意識喚起を行えるようにしています。ガイダンス「**持続可能な社会の構築へ**」「**事例を通して消費者の権利と責任を考えよう!**」を設け、各内容の最終には「**持続可能な生活**」の章を設定して、**SDGsの目標との関連**を考えていけるようにしています。



⑦キャリア教育への取り組み

- ・各内容に関連した**さまざまなキャリアの20人の方へのインタビュー**を通して、中学生に向けたメッセージを掲載しています。

⑧ICT活用への取り組み

- ・動画、アニメーションをはじめとした学びを支えるコンテンツを**QR資料**として多数掲載しています。

⑨「生活の課題と実践」への取り組み

- ・選択して実践する「生活の課題と実践」では、課題例や取り組み方の例を多数取り上げて、**主体的に取り組み、深い学びにつながる**ようにしています。

⑩写真やイラストの取り上げ方

- ・写真・イラストは、**男女の平等、高齢者や障害のある人、外国籍の人**などに配慮しています。

⑪地域や中学生の取り組み

- ・地域の人たちや中学生の取り組みを多数取り上げることによって、**地域理解を深め、自分事として取り組む参考**になるようにしています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
105-76	中学校	技術・家庭	技術・家庭（家庭分野）	第1～3学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
9開隆堂	家庭009-72	技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ		

1 編修上特に意を用いた点や特色

特色
1

生活を自分事として捉え、 問題解決学習が進められる教科書

- 教科書全体を通して、学習の案内役の4人の中学生と学習を補足するキャラクターが登場します。現実の等身大の中学生と重ねながら、中学生の経験を踏まえた問題の気づきや思考を引き出すことによって、中学生が「自分事」として興味・関心をもって学習を進めることができます。



▲4人の中学生キャラクター



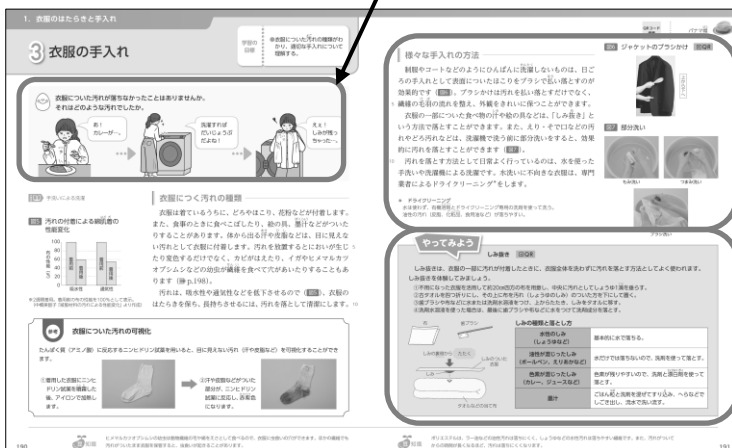
▲ナビゲーションキャラクター

- 「生活の具体的な場面から考える導入」→「客観的な記述から学ぶ基礎・基本」→「生活の中から考える課題」→「学習のふり返し」によって授業が展開できる構成です。

「自分事」として、家庭生活・地域・社会に関心を持ち、問題を見つけ、解決に努め、生活に生かす力を身に付けることができます。



- 「生活の具体的な場面の例」・食事中のソースのはね飛びによる汚れとしみ



- 客観的な記述で基礎・基本がわかる

- 生活の中から考えたり、実践したりする課題

やってみよう 基本的な内容の理解を深めたり
応用したりするための課題。

考えてみよう

話し合ってみよう

「主体的・対話的・深い学び」が具体的に実践できる教科書

●「家族・家庭生活」「食生活」「衣生活」「住生活」「消費生活・環境」について、自分の興味・関心・疑問を書き出す、授業の始めの課題や「話し合ってみよう」などの課題に取り組む→学習をふり返り、自分の生活に生かしていくなどの学習過程を通して、**主体的・対話的・深い学びを実践**することができます。

このページは教科書のガイド部分で、「家庭分野の学び方と身につけたい力」をテーマとしています。左側には「主体的」「対話的」「深い学び」の3つの学習姿勢が説明されています。右側には「生活の見方・考え方の視点」と「家庭分野で身につけたい力」が示されています。また、「学力UPカ」や「自分の問いを掲載せよ」などの実践的な要素も含まれています。

▲ 6・7 ページ

●「主体的・対話的・深い学び」を実践することによって、「**思考力・判断力・表現力**」も身に付けることができます。

「学習のまとめ」では、記述問題を含むふり返りの問題を設定。自らの考えをまとめ、表現する力をつけることができる。

290・291ページ▶

このページは「学習のまとめ」のページで、「消費・環境」に関する学習成果をまとめるための問題が設定されています。1つは「次の文章について、正しい場合は()に、まちがっている場合はその文中の該当箇所を下線を引く」という記述問題、もう1つは「あなたはどのような考えをもちますか」という思考問題です。また、世界地図や商品の写真も掲載されています。

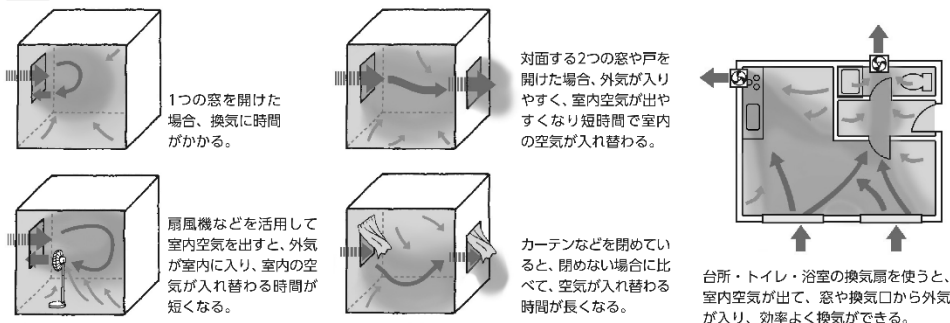
科学的に見つめる目を養うことができる教科書

●衣食住の生活における事象を科学的な視点から考えることができるように、具体的な事例を豊富に掲載しています。

調理方法 Q&A

Q1 なぜ塩をふるのか	Q2 なぜ小麦粉をまぶすのか	Q3 なぜはじめに強火にするのか
A1 塩をふると、水分とともに魚の臭みが抜けていきます。	A2 ムニエルは小麦粉をまぶしてバターで焼く料理のこと。小麦粉は加熱によって魚のうま味と栄養分を包みこむ膜となります。	A3 はじめに強火で焼くと表面のたんぱく質が固まり、うま味を逃しません。

図11 様々な換気方法 QR 青色：新鮮な外気、オレンジ色：室内の汚れた空気



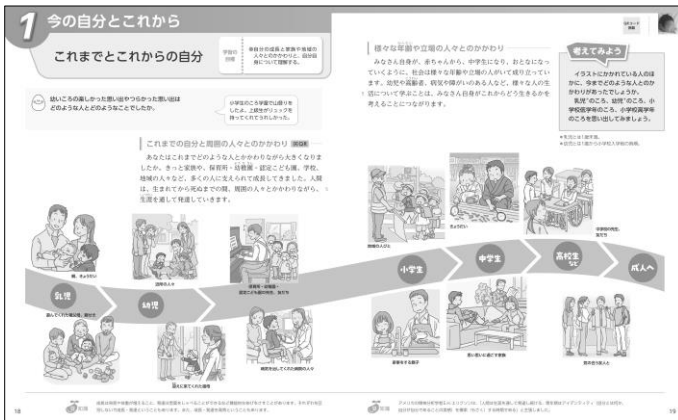
▲245ページ

▲142ページ
調理の「なぜ」から、科学的・理論的に調理技能をとらえることができる。

窓と換気の関係、効果的な換気の原理が、具体的な図で見てわかる。

自己の生涯を見通し、家族・家庭と地域・社会とのつながりがわかる教科書

- 自分の生活を、生涯の見通しをもって見つめること（時間軸）と、自分と家庭生活を、地域・社会との関連で見つめること（生活の横断軸・空間軸）ができるようにしています。



▲18・19ページ「成長と周囲の人びとのかかわり」



▲238・239ページ「世代で変わる住まいへの要求」

自立的・健康的な食生活が実践できる教科書

- 知識と実践力を身に付けて食生活を自立的・健康的に送ることができるように、食生活の内容に紙面を多くとって、重視しています。栄養や食品に関する内容に加えて、調理の意味と基本を知り、実践することができます。
- 地域の食材を利用した調理や全国各地の食材・郷土料理・行事食など、またユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」を掲載し、食文化を継承する意義を理解し、実践できるようにしています。

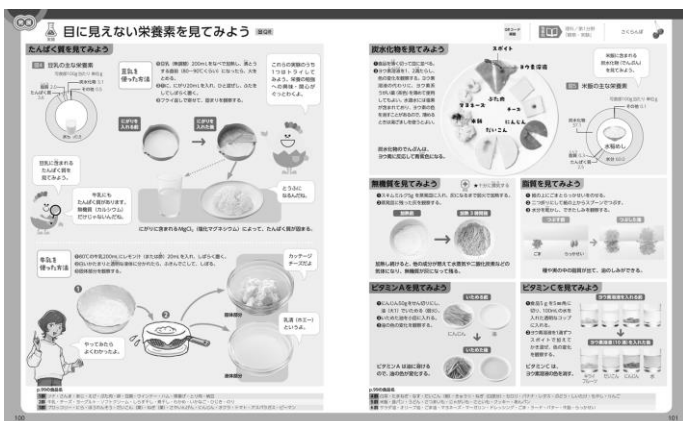


▲122・123ページ「調理の基礎・切る」

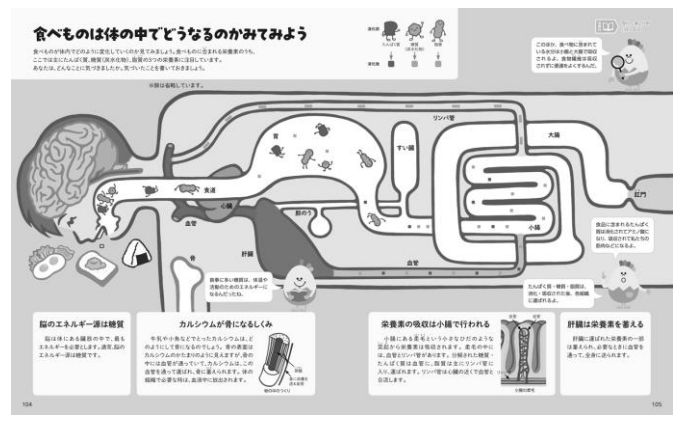


◀158ページ
「伝統野菜の例」

- 目に見えない事象も、視覚化することによって理解が深まるように工夫しています。



▲100・101ページ「目に見えない栄養素を見てみよう」



▲104・105ページ「食べものは体の中でどうなるのか」

観点別教科書の特色一覧

内容の選択・ 扱い・系統性	<ul style="list-style-type: none"> 各章、各節の内容は、学習指導要領の内容を踏まえて、基礎・基本から応用・発展へと学習できる。 各題材とも、「生活の具体的な場面から考える導入」「客観的な記述から学ぶ基礎・基本」「生活の中から考える課題」「学習のふり返り」によって生徒が「自分事」として学習を進めることができる。
内容の組織・ 配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領と同じABCの配列順に構成しているため、学校や地域の実態に合わせて学習を進めることができる。 各内容のトピラでは、生徒の興味・関心を高める写真を用いており、生徒が主体的に学習に取り組める。 該当の学習内容と関連するページに「リンクマーク」を示しており、「他教科・他分野」、「小学校」の学習と関連しながら学習ができる。
主体的な学習への 取組	<ul style="list-style-type: none"> 内容の節ごとに「学習の目標」で始まり、問題解決型学習を通して創意工夫する力を養う課題（「やってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」「話し合ってみよう」）が適切に配置され、主体的・対話的・深い学びを実践できる。 問題解決の手掛かりとなる例示や写真・図表・イラスト等が、過不足なく適切に記載されている。 分かりやすい各種のマークが設定され、さらに、生徒に親しみやすいキャラクターが学習案内や考えるヒントを促したりするなど、生徒が「自分事」として主体的に学習に取り組めるようになっている。
安全・防災教育への 対応	<ul style="list-style-type: none"> 家庭分野での安全・防災について、特に住生活の学習で重視している。 作業上の事故防止や安全・防災教育についての細かい配慮が行き届いている。 「安全」「衛生」「防災」各マークが関係する学習内容につけられていて生徒が視覚的にわかる。
伝統文化に関する記 述	<ul style="list-style-type: none"> 「和食」に触れ、地域の食材を取り入れた調理にも対応できるように、郷土食や伝統的な食文化が具体的に示されている（例：雑煮、おせち料理、ほか）。 「和服」に触れ、浴衣の着方など、受け継がれている生活文化が示されている。 「日本の気候風土と住まい」を設けている。
持続可能な社会の構 築に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンスにおいて、SDGsは「人」と「自然」にかかわっていることをイラストや写真でわかりやすく表現している。 各内容に「持続可能」ページを設け、家庭分野の学習がSDGsにつながることを示している。
キャリア教育の 取組	<ul style="list-style-type: none"> 家庭分野に関係する仕事や取り組みを行っている人物を「先輩からのエール」として幅広く紹介している。将来の進路選択の参考になる。
評価	<ul style="list-style-type: none"> 各内容の学習のまとめは①「知識・技能」②「思考・判断・表現」③「主体的に学習に取り組む態度」に関連しており、自己評価することができる。
特別支援教育や 人権への対応	<ul style="list-style-type: none"> 調理や製作の実習ページでは横流れの紙面となっているので、発達特性に合った構成となっている。 幼児や高齢者など様々な世代の人や性、障がいの有無、国籍に関わらない多様なバックグラウンドをもつ人と関わりをもつことで、多様性を認め合いながら共生の視点に気付けるように配慮されている。
教育のICT化への 対応	<ul style="list-style-type: none"> 二次元コードから読み取る学習コンテンツが全体的に配置されている。 動画や学習カードなど学習に有用なコンテンツが豊富にそろっている。

◆ふれあい体験・調理実習・製作実習の前に

「ふれあい体験の前に（60・61頁）」「調理の前に知って おきたいポイント 手順（118・119頁・調理の基礎（120 - 123頁）」「製作の流れ（211頁）」「製作の基礎・基本を知ろう（212 - 217頁）」を設けて、実習の流れを把握・理解して、安全に実習を進めることができることに留意しています。

◆カリキュラムマネジメントと教科書の配列

技術分野との調整や各学校・地域の実情に合わせたカリキュラムマネジメントがしやすいように、学習指導要領に示されたABCの配列にしています。

◆主体的・対話的・深い学びにつながる課題

「話し合ってみよう」「考えてみよう」「調べてみよう」「やってみよう」などの主体的・対話的課題を豊富に取り上げ、深い学びにつながるようにしています。

◆生活の中の安全、自然災害に対する防災・減災への意識化・実践化

人とのかかわりや衣食住の生活の中での安全や、実習にかかわる作業の安全について丁寧に注意・留意事項を記載しています。自然災害に対する防災・減災については、特設頁（8頁）の中で、具体的な事例や対策法や避難のしかた、避難生活・生活の立て直し等について詳細に掲載しています。

◆伝統文化の視覚化

生活文化や伝統文化について、どのようなことかを理解できるように、数多く取り上げ、具体的な写真で示しています。

◆持続可能な社会の構築の重要性と具体的な取り組み例

SDGsの17の目標はどのようなことなのかをガイダンスや各内容ごとに具体的に示し、生活の中で取り組むべきことや目めざすことについて、実現可能な活動に取り組んだり考えたりすることができます。

◆キャリア教育が具体的に考えられる「先輩からのエール」

実在のキャリアの人たちからの、仕事に対する思いや中学生へのメッセージなどによって、いろいろな職業があることを知ることができます。また、どの職業も自分たちの生活につながり、支えてくれるものであることが理解できます。

◆特別支援が必要な生徒や多様な人々への配慮

カラーユニバーサル、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、紙面の使い方の工夫など、誰にもわかりやすく使いやすい表現をしています。

◆ICT活動への取り組み

学習の場で効果的に活用できる動画や学習カードなどを豊富にそろえて、該当箇所にQRマークを付しています。取捨選択して活用ができます。

2 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
ガイダンス		A (1) ABC	①-15	1
A家族・家庭生活	1 今の自分とこれから	A (1)	18-21	0.5
	2 家庭のはたらきと家庭の仕事	A (1)	22-25	0.5
	3 様々な家族・家庭	A (1)	26-37	1
	4 幼児の生活と家庭	A (2)	40-59	7
	5 幼児が安心できるかわり	A (2)	60-75	5
	6 かわり合う地域と家庭	A (3)	76-81	5
	7 持続可能な家庭生活	AC	82-85	1
B食生活	1 人間にとっての食事	B (1)	90-97	2
	2 食品と栄養素	B (2)	98-105	4
	3 中学生に必要な食事	B (2)	106-115	4
	4 日常食の調理と地域の食文化	B (3)	116-165	20
	5 献立づくり	B (2)	166-171	2
	6 持続可能な食生活	B (1) (2) (3) C	172-175	1
B衣生活	1 衣服のはたらきと手入れ	B (4)	184-199	5
	2 衣服の選択と着方	B (4)	200-209	2
	3 布を用いた作品で生活を演出	B (5)	210-225	7
	4 持続可能な衣生活	B (4) (5) C	226-229	1
B住生活	1 人間にとっての住まい	B (6)	234-235	0.5
	2 生活に必要な住空間	B (6)	236-239	1
	3 自然とともにある住生活	B (6)	240-241	0.5
	4 安全で健康的な住生活	B (6)	242-255	5
	5 持続可能な住生活	B (6) C	256-259	1
C消費生活・環境	1 家庭生活と消費	C (1)	264-265	1
	2 購入・支払いと生活情報	C (1)	266-273	2.5
	3 消費者被害と消費者の自立	C (1)	274-283	3
	4 持続可能な社会に向けて	C (2) ABC	284-289	2
生活の課題と実践		A (4) B (7) C (3)	292-303	2
			計	87.5

編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105-76	中学校	技術・家庭	技術・家庭（家庭分野）	第1～3学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
9 開隆堂	家庭009-72	技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項	ページ数
25	家族・家庭を支える経済	1	A(1)ア	1
36～37	家庭生活を支える社会	1	A(1)ア	2
50	乳児期の場合	1	A(2)ア(ア)	0.25
58	アタッチメント(愛着)と探索行動	1	A(2)ア(ア)	0.5
73～75	子どもの健やかな成長のために	1	A(2)ア(イ)	3
100～101	目に見えない栄養素を見てみよう	1	B(2)ア(ア)	2
189	進化する素材	1	B(4)ア(イ)	1
235	子どもの権利条約	1	B(6)ア(イ)	0.1
249	わたしたちの防災 ふだん→災害時→ 生活再建のサイクルで学ぶ	1	B(6)ア(イ)	1
254	災害後の生活の立て直し	1	B(6)ア(イ)	1
291	児童労働の実態	1	C(2)ア	0.1
304～305	世界の生活文化を見てみよう	1	B(3)ア(エ) B(4)ア(ア) B(6)ア(ア)	2
合 計				13.95